

謹賀新年

12月1日 白沢海岸

新年明けまして

おめでとうございいます

平成三十年(ニロー八年)が

いい年でありますように

皆様のご健勝、ご多幸、

ご活躍を心からお祈りします

枕崎市長

昨年は、台風接近により「さつま黒潮きばらん海枕崎港まつり」や「まくらぎ秋の市」など主なイベントが相次いで中止となりました。ただ、港まつりでの花火大会は、市民の皆さんから「ぜひ実施してほしい」とのたくさんの方が寄せられ、実行委員会の努力により実施する運びとなりました。

さて、昨年の主な出来事を簡単に振り返り、これからの施策にも触れてみたいと思います。

本市は昨年4月に日本最北端・日本最南端の始発・終着駅を有する都市として交流を行っている、北海道稚内市と友好都市を締結して5周年を迎えました。その記念事業の一環として、6月中旬に枕崎市から市民訪問

団19名が稚内市を訪れ、稚内市民から盛大な歓迎を受けました。また、6月下旬には鹿児島水産高校の実習船「薩摩青雲丸」が稚内港に入港するとともに、同校食品工学科の生徒たちが開発した「コンカツラーメン」を稚内市民に振る舞うなど枕崎のPRを行いました。振る舞いの際には、コンカツプロジェクトをおして交流を行ってきた稚内高校の生徒の皆さんにもお手伝いをいただき、両校生徒間の交流がさらに深まったと報告を受けております。そして10月には、工藤広稚内市長をはじめとする、稚内市民訪問団の皆さんが枕崎を訪れました。稚内市で受けた歓迎に負けないくらい盛大にお迎えし、枕崎を堪能していただきました。

コンカツプロジェクトと云えば、先般行われた「ジュニア料理選手権」で、鹿児島水産高校の生徒たちが全国から4053作品の応募があった中、グランプリを獲得しました。昨年も準グランプリを獲得していますので、2年連続での快挙です。枕崎の子どもたちの可能性を全国に示してくれました。これからのますますの活躍を期待します。

次に農業についてです。国は地域の有する農林水産物を食品産業等のさまざまな産業と連携し、新たな産業を創出する6次産業化を推進しております。本市においては、まくらぎ桑本舗が桑茶の6次産業化に取り組み、商品化を実現しました。今後は桑をはじめ、6次産業化を推進し、地域の活性化や地域農業の振興に努めてまいります。今後も引き続き、温暖な気候を生かした枕崎の特色ある農業の展開を進めていきたいと思います。

これからのことについてです。本市の水産業を取り巻く情勢は、これまで続いてきた中西部太平洋漁場における海外まき網船の入漁料高騰に一定の落ち着き感が出てきたものの、漁模様は安定せず、また、鯉節の本節になりにくい小型魚が主体となっており、今後の資源管理に不安を残すところです。さらに、青物魚等の沖合漁業や沿岸漁業においては、水産資源の減少や、太平洋クロマグロの国

際協定による制限など厳しい環境にあります。こうした中、枕崎漁港では昨年、漁港の高度衛生管理基本計画を基に枕崎地区特定漁港漁場整備計画が水産庁により策定されました。今後、岸壁や荷さばき所、製氷施設が整備され、漁港全体が高度衛生化に向けた魚の管理を目指すこととなります。また、鯉節用原魚の冷凍カツオの安定供給については、今後コンテナによる調達が進んでいくことが想定されることから、コンテナ取扱施設の整備も進めていかなければならないところです。

カツオと云えば、捨てるところがなく全ての部分が活用されますが、この度、枕崎水産加工業協同組合の残さし処理施設が国の補助を受け、来年度にかけて別府の工業団地に新しく整備されます。機能性物質DHA原料油は、国内需要のみならず海外需要も拡大しており、食用油脂の専用ラインの整備と併せて高度衛生管理の整った施設とすることで、水産物の輸出促進が期待されます。

また文化面では、平成28年に第1回目を開催し、盛況であった「枕崎国際芸術賞展」の第2回目の開催に向けて、現在、時期や内容等を含め準備を進めているところです。ぜひご期待ください。

今年も幸多い一年になることを期待して、一緒に頑張ります。